株式会社エーアイテック（製造業）

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役 大林 泰彦

世界中の人達が余暇を楽しみ、人でないとできない仕事に専念できる社会をめざす

エーアイテックは省力機械を通じ、モノづくりの縁の下の力持ちとして歩んで参りました。次世代自動車の自動運転やEVの要となるミリ波レーダー、カメラ、パワーカード、BMS等の生産設備も手掛けています。最新のハイテク製品を多くの人が使えるようにします。お客様の人生もより豊かにします。また弊社の環境や待遇改善にも投資を行い、社員や協力会社の人達もより幸せにします。



主力商品　低高温検査装置

〇本社所在地：長野県松本市
〇事業概要：省力機械の開発・設計・製造・販売
〇常時使用する従業員：105名（2025年4月）
〇現在の売上高： 36億円（ 2024年6月期）
〇法人番号：6100001012788
〇Web：https://a-i-tec.co.jp

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2010~2024年までの売上高成長率は年平均約10%なので、そのペースを維持し、2035年の売上高100億円を目指す。



課題

・生産スペースの確保
・エンジニアの採用と教育
・社員増加で難易度の増したコミュニケーション機会の創出
・人事制度の刷新
・他社との差別化による優位性の維持発展
・繁閑の波の平準化
・顧客の多い地域への拠点設立（国内・海外）

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

・工場増築による生産能力向上と作業効率化
・無料の社員食堂によるコミュニケーション強化、健康経営、福利厚生、求職者へのアピール強化
・組織の成長ステージに応じた人事最適化、教育体制強化
・差別化の柱の一つである熱流体技術の強化
・設計の少ない汎用機を開発し繁閑の波を平準化
・東海圏および海外への拠点設立を検討

実施体制

・工場増築は、社内チームと設計事務所と共同ですすめた
・社員食堂は、新規に3名のスタッフを雇用した
・人事制度は、社長を中心に支援機関と共同ですすめる
・熱流体技術の開発は、開発部と営業部ですすめている
・汎用機の開発は、閑散期に社内チームを立ち上げる
・拠点設立については、社長を中心に取引先や金融機関から情報収集をしている

※本宣言は企業自身がその責任において売上高１００億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

株式会社エーアイテック（製造業）

売上高100億円実現に向けた具体的措置

・工場増築
経済産業省から「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」の実施事業者として採択され、2023年12月25日に増築工場が竣工(延床面積8,647→14,072㎡)し、竣工当日から稼働している。サプライチェーン補助金の申請書類内では2030年に売上60億円を目指すと宣言している。もともと居抜きで購入した工場であったため、弊社の業務に最適化できていなかった問題を増築で解消した。自社製品の装置を運搬可能な大型エレベータ(幅3000mm×奥行4500mm×高さ3000mm、積載重量5t)を導入し、以前は装置の組立ができなかった2Fと3Fが使用可能になり、生産が可能なスペースは約5倍になった。また天井クレーン導入、天井高3000mm確保、電源強化、資材を1Fに集約、全社wifi接続とそれに伴うPCのノート化、全社LED化、広い通路の確保、出張専用スペース確保、入出荷スペースに屋根とコンクリート床設置による雨雪・寒冷・暑さ対策、コンプレッサを外に出すことによる騒音と暑さ対策、屋上に北アルプスが展望できるウッドデッキの喫煙スペースを配置し分煙とコミュニケーション活性化、工作機械専用スペース確保による騒音と臭気対策などで生産能力、作業効率、安全性、快適性が向上した。

・社員食堂
工場の一部を、建築士の設計によりカフェのようなくつろげる空間にリノベーションし、2024年11月4日に社員食堂をオープンした。無料で給食形式のランチを提供したり、残業時の夜食の提供やコミュニケーションスペースとして利用している。ランチは9割の社員が利用している。工場の敷地内に菜園をもうけ、有志の社員が野菜やハーブ、果樹などを育てている。収穫物はランチにも使われる。調理で出たくず野菜は肥料として菜園で利用している。マンガ、ビジネス書、新聞などが読めるスペースも設置。プロジェクター、PCゲーム、VRのゲーム機、卓球台、ピアノも利用可能。コミュニケーション強化、健康経営、福利厚生の充実、求職者へのアピールを目指している。

・人事制度
2025年2月1日に企業理念の見直しと経営理念・行動指針の策定して方向性を明確化した。更に人事制度の刷新により、客観的な指標をもうけ、組織の成長ステージに応じた人事評価・人材配置の最適化、教育体制の強化をはかる。経営者は評価や給与に多くの時間を取られることなく、経営に集中できる体制を目指す。賞与は業績連動とし、社員がより業績に関心を持つ仕組みにすると同時に高額な賞与を可能にする。

・熱流体技術
地球温暖化係数(GWP)の低い冷媒を使用したー60℃を生成する冷凍機を開発し、既に受注している。更なる環境に配慮した冷凍機の開発に取り組んでいる。（インバータ制御や冷媒・風の流れ最適化等による省エネ化、ドライエアーの生成による外部からの圧縮エアー不要化、自然冷媒の使用等）また2024年10月には熱流体シミュレーションソフトおよびワークステーションを更新・増強し、効率の良い風の流れを設計に反映させている。断熱パネルの専任設計者を置き、断熱パネルの技術強化をはかっている。

・汎用機開発
冷凍機の技術を応用し、液体窒素を使用しない地球環境に優しい低温ICハンドラを開発中。2027年の展示会出展を目指している。また実績の多い専用機（防湿材塗布機、異形部品挿入機）をベースに汎用機開発もすすめる。

・拠点設立
顧客の多い愛知県への出張の負荷が大きいため、現地での拠点を設ける事も考えている。現在は金融機関にM&Aで良い物件がないかを聞いている。自社で新規に立ち上げる事も考慮している。海外の顧客も多く、世界企業を目指しているため、海外拠点の設立も視野に入れている。